

テルモロッシ

エコサーモ5000サーモコンフォート取扱説明書

目次：

1. はじめに
 1. 1 注意事項
 1. 2 安全のために
 1. 3 標準、推奨事項
 1. 4 輸送と保管
2. 仕様
3. 基本的な説明
 3. 1 装置の概要
 3. 2 ペレット (燃料) について
 3. 3 ペレットタンクについて
4. 設置について
 4. 1 ストープの設置場所
 4. 1. 1 サイドパネルの取り付け
5. 操作について
 5. 1 メインコントロールパネルと背面パネルについて
 5. 2 曜日と時間の設定
 5. 3 着火・消火プログラム
 5. 4 燃焼レベル設定
6. ストープの使用方法
 6. 1 電源の操作
 6. 2 燃焼状態の設定
 6. 3 赤外線リモコン
 6. 4 サーモコンフォートリモコン
 6. 5 フィルター
 6. 6 送風管
7. 自動室温サーモスタットと時間別自動室温サーモスタット
 7. 1 自動室温サーモスタット (オプション)
 7. 2 時間別室温サーモスタット (オプション)
8. クリーニングとメンテナンス
 8. 1 はじめに
 8. 2 ストープのクリーニングとメンテナンス
 8. 3 サーモコンフォートリモコンの充電について
 8. 4 赤外線リモコンの電池交換
 8. 5 コントロールパネルのバックアップ用電池交換
9. 排気管について
 9. 1 室内の換気
 9. 2 排気管について
10. アラーム
11. 電気回路図
12. 資格を有する技術者のための調整準備
 12. 1 基本的構成部品と機能
 12. 2 設置、操作のアドバイス
 12. 3 トラブルシューティング
13. パーツリスト

THERMOROSSI “CE” マーク安全基準適合宣言

以下の基準にしたがっています。

- European directive 73/23/EEC – Standard CEI 61/50 – European directive 93/68/EEC
- Standard CEI EN 60204 – European directive 89/336/EEC – Standard CEI 64-8 (IEC 364)
- European directive EN 14785: 2006

テルモロッシ社（住所：Via Grumolo 4 – ARSIERO (VI), Italy）の責任において、エコサーモシリーズのストーブは、CE マークの要求する安全基準に基づいて設計、製造されています。




この宣言は、エコサーモシリーズすべての製品に該当します。

1. はじめに

1. 1 ご注意

- この説明書は、設置、操作、メンテナンスに必要ですので、お客様が必ず保管して下さい。
- 設置、操作、メンテナンスの前に本書をよく読んで下さい。本書に書かれているメンテナンスは必ず実施して下さい。
- この製品は、本書に記載されている使用方法にしたがって使用してください。それ以外の使い方や、誤った使い方をすると危険です。その際生じた事故や故障は、すべてお客様の責任となります。
- この製品の設置、メンテナンスおよび修理は、専門の技術を持った業者の手で、規格に沿った説明書に従ってとりおこなってください。部品交換が必要な際は、必ず正規の部品を使用してください。
- 誤った設置の仕方や、ずさんなメンテナンスによるけがや器物破損が生じた場合、メーカーはいかなる責任も負いません。
- 製品のクリーニングやメンテナンス作業を行う前には、必ずすべてのスイッチを「切」の状態にし、電源プラグを抜いてください。
- この製品は、防火設備の整った建物に設置し、電源や排気口をきちんと確保してください。
- この製品を売却または譲渡する時は、この取扱説明書を必ず製品に付属してください。

1. 2 安全のために

- 警告  この表示の注意事項を守らないと、死亡や大けがなどの重大な人身事故の原因となります。
- 注意  この表示の注意事項を守らないと、製品の破損や故障の原因となります。
- 重要事項  この表示は、製品を使用の際、とくに重要な事柄を示しています。

1. 3 標準と推奨事項



- この取扱説明書は、製品を正しく使用するために不可欠なものです。ご使用前に、熟読されることをおすすめします。
- 正しい設置、使用、メンテナンスを行うために、必ずこの取扱説明書を熟読してください。
- お客様によって行われた改造は、すべてお客様の責任となります。使用前、使用中の設置と装置の効果的な運転を維持するための保守に必要な操作は、お客様の手にゆだねられます。
- 一般的な注意事項

この製品は、かならずPE アース (EEC 7 3 / 2 3スタンダード、EEC 9 3 / 9 8スタンダードに
適応。低電圧電気機器用) に接続してください。設置前に、アース回路が有効であることをお確かめく
ださい。電源ケーブルの容量が充分であるかをご確認ください。新築の場合アース付コンセントを設けて下
さい。

この製品は、正しい電圧のもとで使用してください。
この製品本体は、220-240V、50Hz.で作動します。10 パーセント以上高い電圧で使用すると、運転が正
常に行われないか、もしくは破損のおそれがあります。日本で使用する場合は 220/100Vの変圧トラン
スを介して使用します。

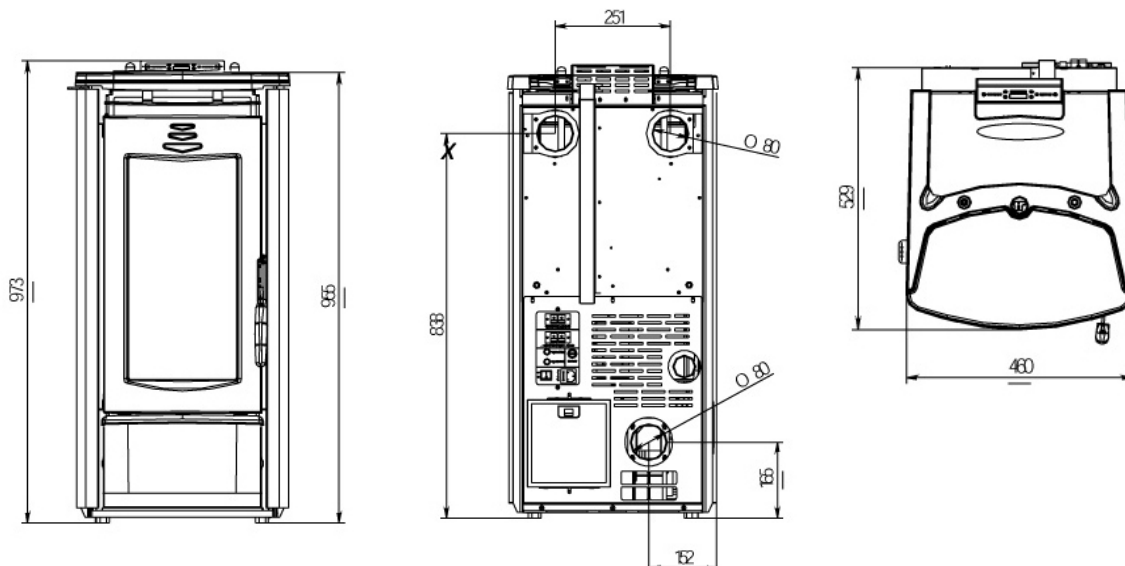
1. 4 輸送と保管

- 製品を動かすときの注意
ストーブ本体を移動するときは、必ず垂直状態のまま台車に乗せて動かしてください。その際衝撃
を与えないように十分注意してください。セラミック、背面パネル、ガラスのドア部分は破損
しやすいので、特に気をつけてください。
- 保管

ストーブ本体およびカバーは、湿気やカビのない屋内で保管してください。直射日光や
風雨を避け、また、本体を直接床に置かないようにしてください。保管場所による機器への
影響はいかなる場合も保証いたしません。

2. 主な仕様

技術的特性		Ecothrmo 5000
出力 (DIN18891 規格に基づく) (最小/最大)	Kw =Kcal/hr	2.5/9.2 2,160/7,930
暖房可能容積 =暖房面積 (天井高さ 3mとした場合)	m ³ =m ²	189 63
最大燃焼効率	%	86
消費電力 (最小/最大)	Watt	70/270
排気ガス量	g/s	5.5
排気ガス温度(平均)	°C	220 (180)
最小排ガス吸引圧力	mbar	0.12
高温遮断サーモスタット		●
圧力スイッチ (排気センサー)		●
排気ガス管の直径と位置	mm	80 後面
一次空気		●
二次空気		●
ペレットタンク容量	kg	14.5
ペレット消費量 (最小/最大)	kg/時	0.7/2.3
燃料の制約	DIN51731 (HP2)	水分 12%以下の白木が理想的 直径 6~10mm×長さ 1~2cm 4170Kcal/Kg=17500~19000KJ/Kg 比重 1.0~1.4
燃焼持続時間=燃料充填までの時間 (最小/最大)	時間	20.7/6.3
リモートコントロール		●
送風調整		6 段階
温度調節		5 段階
自動着火		●
ガラスの自浄作用と燃焼制御システム		●
最低騒音	db	38
エアフィルター		●
本体重量 (EASY/メタル)	kg	128/132
外形サイズ w×d×h	mm	460×529×973
脚の高さ調整		●
音声アラーム		—
温調サーモスタット (オプション)		●
2週間プログラマー (オプション)		●



3. 基本的な説明

3. 1 装置の概要

- ・ このストーブは、優れた暖房能力と使いやすさを兼ね備えた製品です。最高級のコンポーネントと性能は高性能なマイクロプロセッサにより高い信頼性と最適な性能を導き出します。

3. 2 ペレット燃料について

- ・ ストーブの燃料である、おがくずを圧縮したペレットは、手動で供給することなくタンクから自動で供給されますので炎の熱を十分に楽しめます。
- ・ ペレットは、圧縮されたおがくずまたは木の切りくずで、直径6 mm、長さは約15 mm です。水分の含有量は8%以下、熱量は4000~4500Kcal/kgで、その密度は620~630Kg/m³です。
- ・ 標準的な木材は、水分の含有量10~20%におよび、熱量は2500~3500Kcal/kgと小さいので、この製品への使用には適しません。

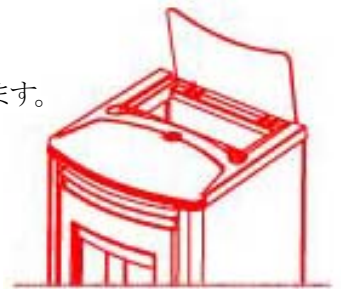
▽ 注意

上記に特定した燃料以外のものを使用した場合、保証はいたしかねます。

3. 3 ペレットタンクについて



- ・ ペレットタンクは、ストーブの上面にあります。約14.5kg 充填出来ます。但し、ペレットにより重量は異なります。
- ・ ペレットタンクはシーズン中は1ヶ月に1度、シーズン前、シーズン後はタンクを空にして掃除機でタンク内を掃除して下さい。



4. 設置について

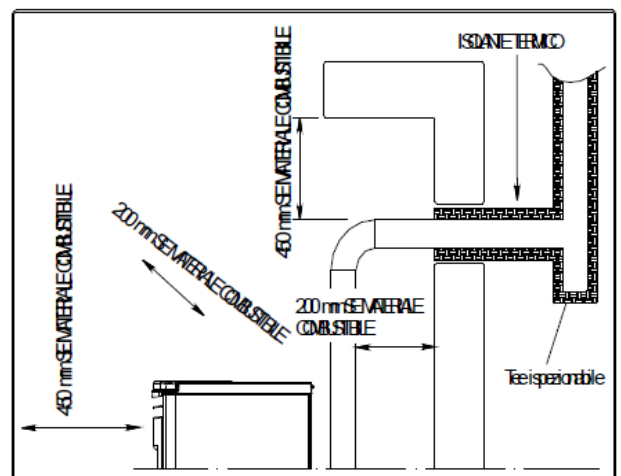
4. 1 ストーブの設置場所



まず、この取扱説明書の1章の「1. 1 ご注意」の項をよくお読みください。設置するフロア面がストーブの重量に充分耐えられるかどうか、設置前によくご確認ください。
警告：設置する部屋には外気との換気口を必ず設けて下さい。(最低80 cm²以上)



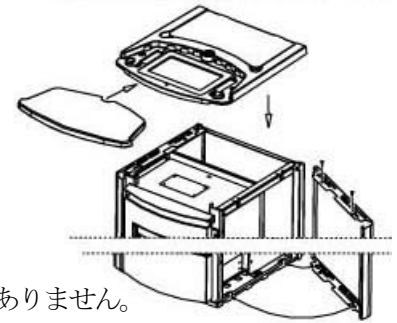
壁や、周辺の家具などから十分な距離を取って設置してください。
カーテンや布張りソファ、木製の家具など可燃物には特に余裕を持って距離を取ってください。ストーブ側面および背面は、最低限20 cm以上の隙間を確保してください。
またストーブ前面は、最低80 cm以上の間隔が必要となります。必要に応じて断熱材にて保護して下さい。但し、設置する地域の条例などによる規制がある場合は、それに従って下さい。カーペット敷など可燃性の床、またはフローリング



の床の場合は、金属製の保護シートなど不燃性の保護材を床に敷いてから設置してください。保護材は、ストーブ前面より50 cm以上、両側面より30 cm以上の大きさが必要です。

4. 1. 1 メタルカラーパネルの組み立て

- ・ ストープ本体を設置したら右図のように、側面パネルと天板タイルを取り付けます。(EASYは不要)
はじめに上部の枠を外します。
側面パネルをストーブ本体下部の穴に入れ、上部を二個のねじで固定します。その後、枠と天板タイルを組み立てます。
タイル表面は焼き物特有の釉薬の割れが見られますが不良品ではありません。

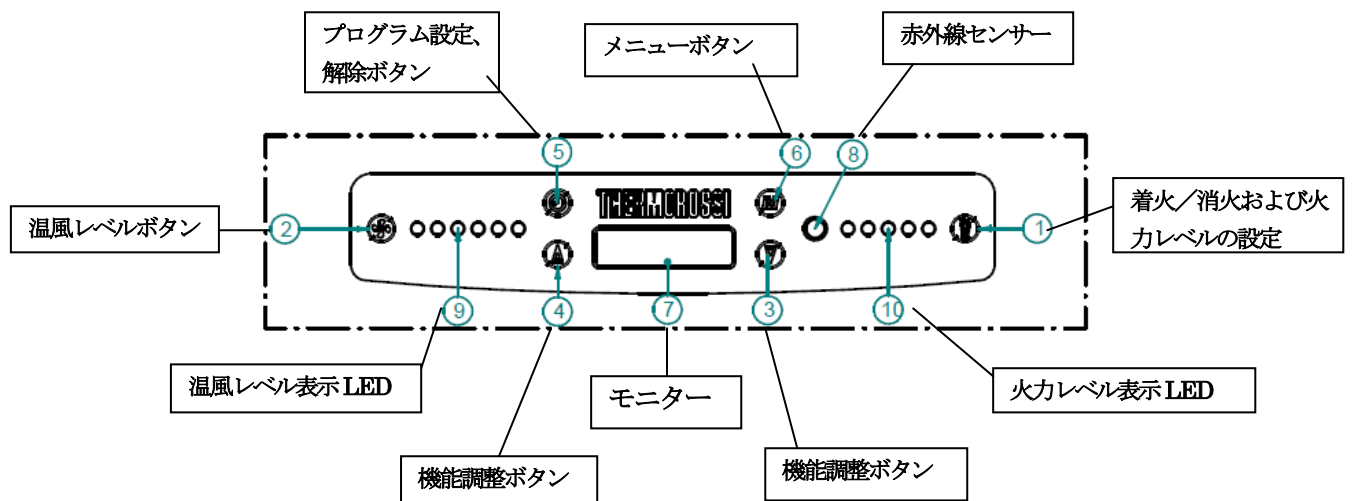


5 操作について

ET1000とLEDの配置は違いますが機能は全く同じなので挿絵はET1000のパネルにて説明いたします。

5. 1 メインコントロールパネルと背面パネルについて

5. 1. 1 メインコントロールパネルの説明



火力ボタン①、温風ボタン②の2つの主要ボタンが識別マークにて表示されています。火力ボタン①は火力レベルを5段階に設定でき、レベルは⑩のLEDを点灯して表示します。LEDが1つも点灯していない状態は消化モードの状態です。ボタン②はストーブの送風レベルを設定します。燃烧室が42℃以上になると操作可能です。送風レベルはご希望のレベルに設定可能ですが、ストーブが稼働中は停止することはできません。また、ストーブ内部の過熱防止のために火力レベルより高いレベルに設定下さい。

■上手なストーブの使い方 (レベル調整)

温風の暖かさは温風レベルと火力レベルのバランスで決まります。お客様の体感に合わせてレベルを調整して下さい。火力レベルだけ上げても温風レベルを上げないとストーブ内部だけが熱くなり部屋は暖まりません。逆にストーブ内の電子機器へ悪い影響があります。最適な目安は以下の通りです

火力レベル1の時：温風レベル2～3

火力レベル2の時：温風レベル3～4

火力レベル3の時：温風レベル4～6

火力レベル4、5の時：温風レベル6

火力レベルはモニター表示が「Star」の時に調整しておくとし「ON」表示になった時自動的に調整した火力レベルで運転します。

温風レベルはモニターが「OFF」の状態でも調整しておいてストーブが着火してセンサーが暖かい温風を送風できると感知すると自動的に調整したレベルで運転を開始します。

注意：火力レベル5(最大燃焼)は過熱防止のため1時間以内の使用として下さい。同様に過熱防止のためには風量は常に強め(上記参照)お使い下さい。

全ての操作と表示を下記に示します。

①着火／消火および火力レベルの設定：このボタンで「Star」「ON」「OFF」を操作できます。繰り返し押すと火力レベル 5 段階に調整できます。

②温風レベルボタン：押すと送風ファンのレベルを 6 段階まで設定出来ます。レベルは⑨の表示 LED が点灯して表示されます。

③④機能調整ボタン：このボタンはプログラムの際のレベル設定、時間設定などに使用します。

⑤プログラム設定、解除ボタン

⑥メニューボタン：メインメニューへアクセスするときに押します。繰り返し押すと調整、設定、プログラミングがスクロールします。(5.2,5.3,5.4 参照)

⑦モニター

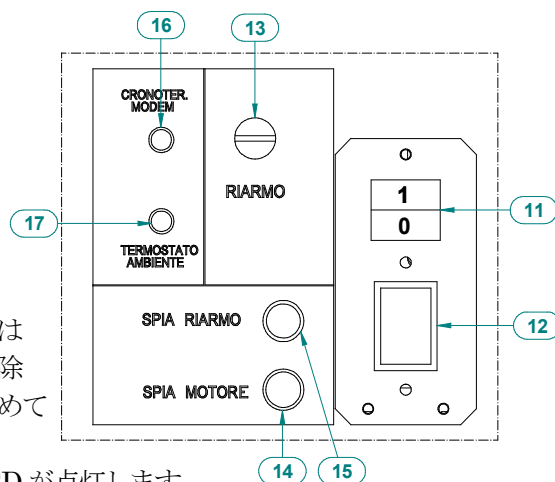
⑧赤外線センサー

⑨温風レベル表示 LED

⑩火力レベル表示 LED

5. 1. 2 背面パネルについて

背面パネルのボタンの機能と LED の説明。



⑪メインスイッチ

⑫ストーブ電源接続口 (220-240V/50Hz)

⑬過熱防止温度センサーボタンキャップ

ストーブが過熱しすぎるとペレットの供給を止めます。このとき⑮のランプが点灯します。再スタートするためにはストーブが冷えるまで待って、過熱の原因を確認の上、排除して下さい。その後キャップ (ネジになっています) を緩めて外し、ボタンを押して下さい。

⑭ペレット供給モーターの稼働 LED：稼働するとこの LED が点灯します。

⑮温度センサーランプ：リセットされた過熱防止温度センサーは再び過熱を感知するとこの LED が点灯してペレットの供給を止めます。

⑯オプション用クロノサーモスタット接続口 (7 項参照)

クロノサーモスタットは別売りです。

⑰オプション用室温サーモスタット接続口 (7 項参照)

室温サーモスタットは別売りです。

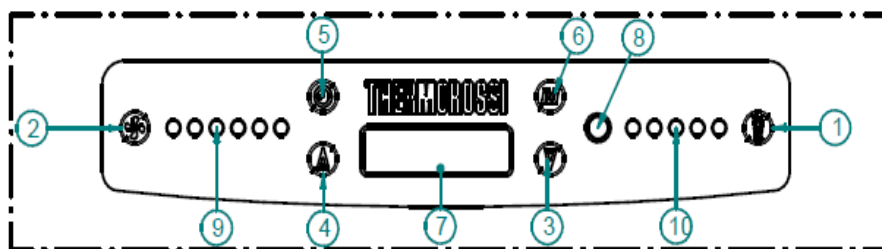
5. 2 曜日と時間の設定について

まずストーブのメインスイッチを入れて、ディスプレイ⑦に「On」「OFF」「Star」のいずれかが表示された状態で行って下さい。

時間と曜日の設定は下記手順にて行って下さい。

< LED ⑨が表す曜日 >

- 月曜日：●○○○○○
- 火曜日：○●○○○○
- 水曜日：○○●○○○
- 木曜日：○○○●○○
- 金曜日：○○○○●○
- 土曜日：○○○○○●
- 日曜日：●●●●●●

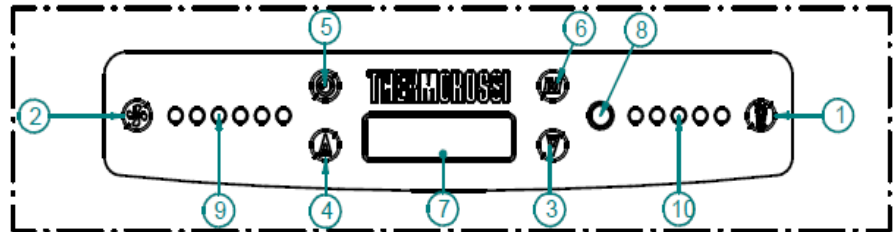


ボタン⑥を 1 回押すと時間が点滅します。数秒後「days」と表示されます。曜日を設定するにはこのとき矢印ボタン③または④を押して⑨の LED を曜日に合わせて点灯させて下さい。月曜日は 1 番目の LED が点灯します。火曜日は 2 番目の LED が点灯します。この順番で土曜日は 6 番目の LED が点灯します。日曜日は 6 つの全ての LED が点灯します。現在の曜日に合わせたらボタン①を押すとセットされます。続いて 2 桁の数字がディスプレイ上で点滅します。これは時間を表わしますのでボタン③、④にて現在時

間に合わせてボタン①を押してセットして下さい。次に分表示が点滅します。これも同様にボタン③、④で現在時刻に合わせてボタン①を押してセットして下さい。以上で曜日と時間の設定は完了です。ストーブの稼動状況を表すディスプレイ表示に戻す為にボタン⑥を「On」「Off」「Star」のいずれかが表示されるまで繰り返し押しして下さい。

5. 3 自動着火/自動消火のプログラム

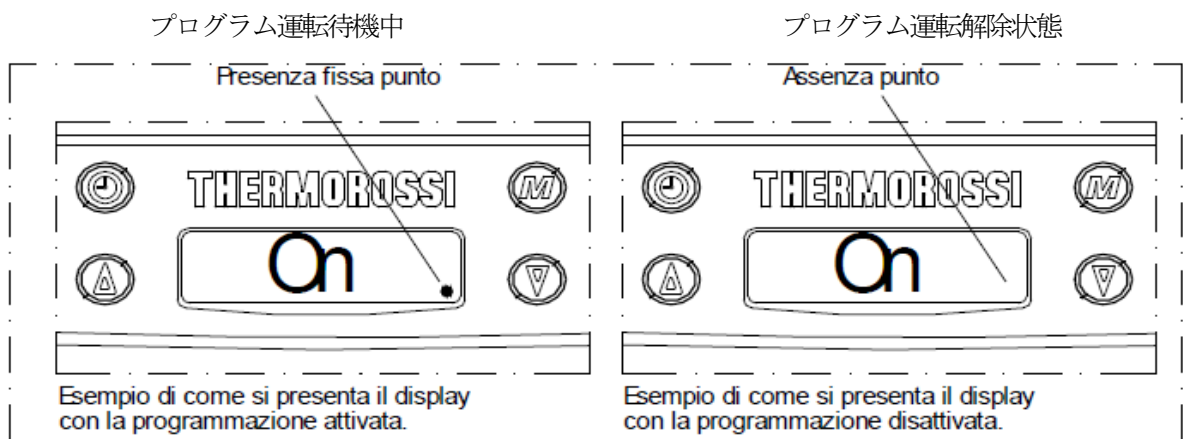
まずストーブのメインスイッチを入れて、ディスプレイ⑦に「On」「OFF」「Star」のいずれかが表示された状態で行って下さい。



着火/消火のプログラムは1日3プログラム設定でき、各曜日、1週間分のプログラム設定が可能です。プログラミングするためにメニューボタン⑥を2回押すと「cr on」と表示され⑨のいずれかのLEDが点灯します。(これは曜日を意味します。日曜日は全て点灯) 続いてディスプレイに「On1」と表示され時間を表す2桁の数字に変わります。ボタン③、④でスタートさせる時間を設定して下さい。ボタン①を押すとセットされます。次に分単位が表示されますので同様にボタン③、④で分単位を設定してボタン①を押してセットして下さい。これで最初の月曜日にストーブをスタートさせる時間の設定は終了です。

次に「OFF1」と表示され時間を示す2桁の数字に変わります。消火する時間をボタン③、④にて設定して下さい。ボタン①を押すとセットされます。続けて分単位を示す数字が表示されますので同様にボタン③、④にて分単位を設定してボタン①を押してセットして下さい。これで設定した曜日の着火/消火のプログラムは設定されます。同じ日に別の時間のプログラムを追加できます。(例えば朝、昼、夜、1日3回のプログラムを設定できます。) この場合最初のプログラム設定の後「On2」「OFF2」「On3」「OFF3」と表示されますので同じように時間をセットしていただくとプログラミングされます。また例えば水曜日のプログラムを設定、変更する場合はボタン②を繰り返し押しして⑨のLEDの3番目を点灯させて設定して下さい。(ボタン②で曜日をセレクトします。) また1日1回のプログラムのみを設定する場合その後のプログラム(「On2、OFF2、On3、OFF3」)の時間設定をすべて「00」と入力して下さい。

プログラミングを終了する場合はボタン⑥を押して終了して下さい。ボタン⑤を押すことによりプログラムを実施するかしないか設定できます。(プログラム実施の場合：ボタン⑤を押すと「on cr」と表示された後ディスプレイの右下へポイントマークが表示されます。実施しない場合：ボタン⑤を押すと「of cr」表示された後ディスプレイ右下のポイントマークは表示されません。) この機能は設定されたプログラム運転を回避するには非常に便利です。プログラム運転がスタートした時の運転レベル(火力、送風レベル)は前回プログラム運転で終了した時のレベルでスタートします。現在時刻ならびにプログラムを表示させたい場合はボタン⑥を現在時刻が表示されるまで繰り返し押しして下さい。表示されたらボタン③、④を押すとプログラム内容を確認出来ます。通常のディスプレイ表示に戻す場合はボタン⑥を2回押しして下さい。



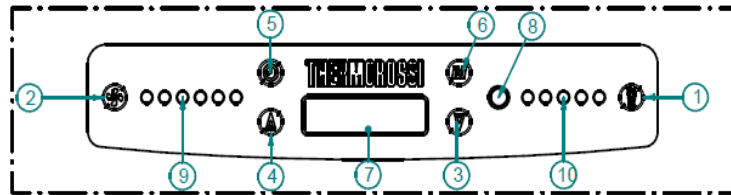
プログラム運転をする場合でも燃焼皿は常にメンテナンスして下さい。燃焼皿に灰などが残っていると着火ヒーターの寿命低下につながります。



プログラム運転待機中（ディスプレイ右下にポイントマーク表示中）の時はオプションのクロノサーモスタットを装着しても機能しません。（7.2 項参照）

プログラム運転を解除する場合は「rESt」と表示されるまで約8秒間ボタン⑤を押し続けて下さい。この操作はディスプレイ表示が「On」「OFF」「Star」の時に出来ます。

5. 4 燃焼レベル設定



メインスイッチを入れて下さい。ディスプレイに「On」「OFF」「Star」のいずれかが表示されます。本機は効率の良い燃焼状態をプログラミングされております。これは「P1」です。もし燃焼後の残留物が多い標準外のペレットを使う場合などは他のレベルを選択できます。

P2：このプログラムは吸排気能力をアップさせます。

P0：長めのペレットを使う場合またはドラフト圧が0.2hP以上の時（ペレットが早く燃え尽きる場合）

ペレットの消費量はこのレベル設定には影響されません。設定の変更は次に従って設定して下さい。

ボタン⑥を3回押しして下さい。ディスプレイに「LIV」が点滅し、設定されている燃焼レベルが表示されます。（P1、P2、P0）レベルを変更するにはボタン④を押しながらボタン③を押して下さい。ボタン③を繰り返し押しすと「P2」・・・「P0」・・・「P1」と表示が変わります。



このレベル設定はストーブが燃焼中でも可能です。稼動中に変更した場合、燃焼状態が変わるでしょう。最適な燃焼状態を設定するために、独自の設定条件を管理することはストーブにとって必要です。設定した後も日々燃焼皿はクリーニングして下さい。

全体の確認やディスプレイを通常の稼動表示に戻すためにボタン⑥を稼動表示になるまで繰り返し押しして下さい。またディスプレイが「On」「OFF」「Star」のとき、ボタン⑤を約8秒間押し続けると「rESt」と表示され燃焼レベルは標準設定の「P1」へリセットされます。

6. ストーブの使用方法

6. 1 電源の操作

ストーブを使用する前にすべての取り付け部品が正しく取り付けられているか確認して下さい。またラベルやステッカーなどは跡が残りますので全て剥がして下さい。

ストーブ背面のメインスイッチを入れて下さい。ボタン①を押すと着火モードとなります。ボタン①を繰り返し押しするとLED⑩の点灯が変わりますので希望する火力レベルを設定して下さい。着火モードが終わると希望のモードで運転されます。ペレット供給オーガにペレットが充填されていない場合（最初の稼動時またはペレットタンク清掃後など）、ペレットが出てくるまで時間が掛かり着火できない場合があります。この場合はもう一度着火モードにして下さい。



注意：着火モード（「Star」が表示中）の20分間は他の設定には対応しません。運転モード「On」が表示されると希望設定で運転します。ただし送風室が42℃になると自動的に送風ファンは送風を開始します。火力レベルはボタン①にて5段階、送風レベルはボタン②にて6段階に調整出来ます。



着火させる場合はディスプレイが必ず「OFF」の表示の時に着火ボタン①を押してスタートさせて下さい。それ以外の表示の場合はボタン⑥を繰り返し押しして「OFF」表示になるようにして下さい。

6. 2 ストーブの火力と送風のレベル調整

ストーブの火力レベルはボタン①またはリモコンにより調整されます。この操作は燃焼皿への燃料の供給量を調整します。火力レベルはLED⑩の5つのLEDが全て点灯した時が最大レベルです。

▽ 注意：送風ファンは燃焼室が 42℃に達すると自動的に移動します。ボタン②またはリモコンで 6 段階に調整出来ます。LED⑨がレベルにより点灯しますのでボタン②を繰り返し押し調整して下さい。ストーブ内部の過熱防止のため送風レベルは火力レベルより高いレベルに設定してお使い下さい。また導入初期はファンモーターのグリスが馴染むまでレベル 6 にセットして着火ボタンを押して下さい。42℃に達して送風が開始されたら火力レベルに合わせて調整して下さい。

設置される地域、ペレットの種類によりペレットの供給量他の調整が必要です。設置後は必ず代理店にて燃焼テストを実施しながら調整してもらって下さい。

6. 3 赤外線リモコン (標準で付属しています。)

このストーブは付属の赤外線リモコンでも操作出来ます。白いボタンは操作パネルのボタン①、青いボタンはボタン②と同じ操作ができます。但しプログラムなどの設定には使用できません。着火・消火および火力・温風の調整のみ可能です。ボタンを押すと緑の LED が点灯します。点灯しない場合が電池切れですので電池を交換して下さい。(電池はパナソニック LRV08 : 12V 相当)



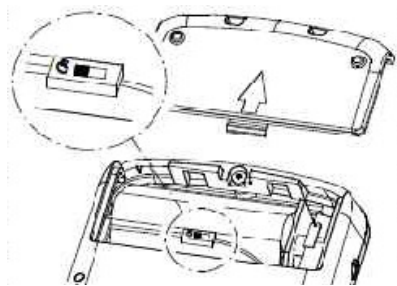
6. 4 サーモコンフォートリモコン (オプション)

このストーブはサーモコンフォートリモコン (室温設定自動運転) の受信装置が内蔵されています。オプションのサーモコンフォートリモコンを購入すると室温を設定温度になるよう自動運転出来ます。但し電波の届く範囲は設置環境、壁の厚さなどにより 6~7mの範囲になる場合がございますので予めご了解の上ご購入下さい。注意：サーモコンフォートリモコンでは着火・消火の操作は出来ません。



注意：最適な電波の送信のためにサーモコンフォートリモコンは壁などに掛けてご使用下さい。サーモコンフォートリモコンを操作するにあたり下記準備下さい。

■リモコンのバッテリー蓋を開いてバッテリーのスイッチを ON にしたあとリモコン背面のサーモコンフォートリモコンのメインスイッチ⑩を ON にして下さい。



■付属の充電器で充電して下さい。充電容量が全くない場合は最初の 5 日間は充電器に接続したままにしておいて下さい。十分充電されたら充電をやめて下さい。わずかな継ぎ足し充電や常時充電はバッテリーの寿命を短くしますのである程度充電容量が少なくなったら充電して下さい。またバッテリーのスイッチを ON にしないと充電されません。

■ストーブ背面のメインスイッチを ON 「1」 にして下さい。

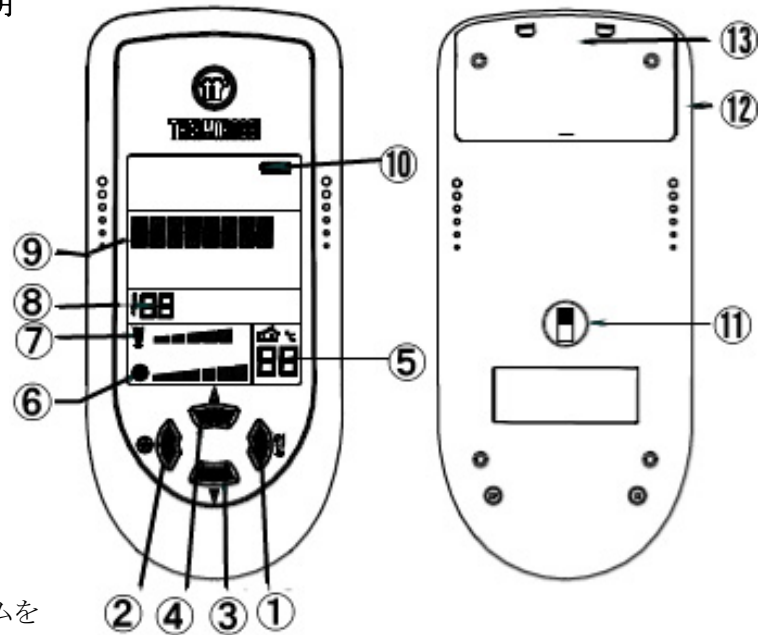
<注意>

シーズン終了後はバッテリー保護のためバッテリースイッチを OFF (1) にして保管して下さい。

付属のバッテリーの保証期間は 6 カ月です。充電が十分に出来なくなったら充電電池を交換して下さい。

6. 4. 1 サーモコンフォートリモコンの説明

- ① 火力レベル調整ボタン
- ② 温風レベル調整ボタン
- ③④ 機能調整ボタン
- ⑤ リモコンが感知している室温
- ⑥ 温風ファンレベル表示
- ⑦ 火力レベル表示
- ⑧ 設定温度（希望される室温）
ボタン③または④を押してご希望の室温を選択出来ます。
- ⑨ 運転プログラムを表示しています。
- ⑩ バッテリーの容量（残量）の表示
- ⑪ リモコンのメインスイッチ
- ⑫ 充電器差し込み口
- ⑬ バッテリー蓋



サーモコンフォートリモコンは4つのプログラムを選択出来ます。モニターの⑨へ表示は

「MANUAL」「AUTO5」「AUTO3」「ECONOMY」

のいずれかが表示されます。

<プログラムを選択または変更する場合>

リモコンのメインスイッチ⑪をONにしてください。

プログラム表示⑨の表示が点滅するまでボタン③を長押しして下さい。

プログラムが点滅したらボタン③を一旦離して下さい。点滅している間にボタン③または④を押してご希望の運転プログラム表示にしてください。これで選択、変更が完了です。

「MANUAL」のプログラムについて

このプログラムの場合リモコンでの室温調整はできません。（設定温度は無視されます。）火力レベル、温風レベルをリモコンで操作出来るだけのプログラムです。（注意：着火・消火はできません。）

ボタン①を押すとモニター⑦の火力マークが点滅します。ボタン③を押すと火力レベルは小さくなり火力レベルを示す■■も消えていきます。逆にボタン④を押すと火力レベルは大きくなりレベル表示の■■も増えて行きます。火力レベルを変えたい場合はボタン③④で調整して下さい。

同様に温風レベルを調整したい場合まずボタン②を押して下さい。ファンのマーク⑥が点滅します。ボタン③を押すと温風は弱まりレベル表示の■■も消えていきます。逆にボタン④を押すと温風は強まりレベル表示■■も増えて行きます。

注意：電波障害により操作が出来ない場合は標準の赤外線リモコンをお使い下さい。

上手なストーブの使い方（レベル調整）

サーモコンフォートリモコンの場合も同じですが火力レベルだけ上げても温風レベルを上げないとストーブ内部だけが熱くなり部屋は暖まりません。逆にストーブ内の電子機器へ悪い影響があります。最適な目安は以下の通りです

火力レベル1の時：温風レベル2～3

火力レベル2の時：温風レベル3～4

火力レベル3の時：温風レベル4～6

火力レベル4、5の時：温風レベル6

「AUTO5」プログラム

このプログラムはご希望の室温になるよう自動で火力・温風を調整します。ご希望の温度はモニター⑧へ表示されます。ボタン③④でいつでも温度変更できます。「AUTO5」のプログラムは設定温度になるよう火力および温風を最大レベルで運転させます。その為、短時間で設定温度へ近づける事ができますがペレットの消費も多く、送風音も大きくなります。設定温度に達すると燃焼レベルは安定します。

注意：電波障害により操作がうまくいかない場合もございます。このプログラムの場合赤外線リモコンは使用できません。また設定温度が高すぎるとストーブはいつまでも最大火力レベルで燃焼を続けますので

オーバーヒートや電子機器の損傷につながり寿命の低下を招きます。適切な設定温度を設定して下さい。

「AUTO3」プログラム

このプログラムもご希望の室温になるよう自動で火力・温風を調整します。ご希望の温度はモニター⑧へ表示されます。ボタン③④でいつでも温度変更できます。「AUTO3」のプログラムは設定温度になるよう火力レベル 3 および温風レベル 4 で運転します。設定温度なるまで「AUTO5」より時間は掛りますがペレットの消費量は少なくストーブへの負担も軽減されます。設定温度に達すると燃焼レベルは安定します。**注意：電波障害により操作がうまくいかない場合もございます。このプログラムの場合赤外線リモコンは使用できません。また設定温度が高すぎるとストーブはいつまでも最大火力レベルで燃焼を続けますのでオーバーヒートや電子機器の損傷につながり寿命の低下を招きます。適切な設定温度を設定して下さい。**

「ECOMOMY」プログラム

このプログラムもご希望の室温になるよう自動で火力・温風を調整します。ご希望の温度はモニター⑧へ表示されます。ボタン③④でいつでも温度変更できます。「AUTO3」のプログラムは設定温度になるよう火力レベルおよび温風レベルは最小レベルで運転します。もっともペレットの消費が少なくストーブへの負荷も軽いので長時間ご使用される場合はお勧めのプログラムです。このプログラムの場合赤外線リモコンは使用できません。



サーモコンフォートリモコンでの着火・消火はできません。本体の操作パネルで行って下さい。

6. 4. 2 送信コードについて

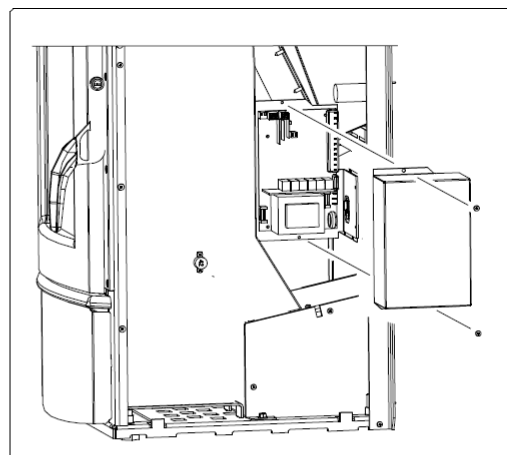
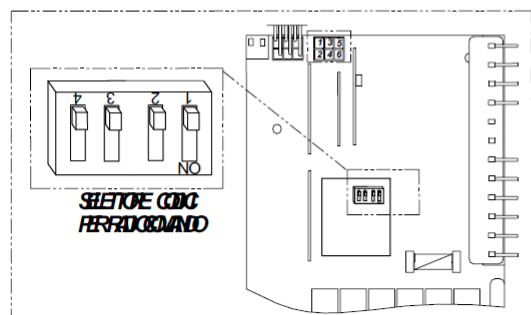
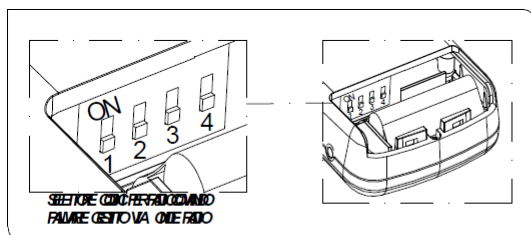
2 台以上のストーブを隣接して設置しサーモコンフォートリモコンを使用する場合、混信しないように周波数をそれぞれ別にする必要があります。これはストーブのメインスイッチを入れた状態で行って下さい。これは 2 つのストーブの誤作動を防止する為に必要です。使用周波数を変更する場合、それぞれのコードを確認した上で同じコードにして下さい。工場出荷時は全て標準設定されています。

本体のメインスイッチおよびサーモコンフォートリモコンのメインスイッチ⑩を切りバッテリー蓋⑬を開けてバッテリースイッチも OFF にして下さい。またストーブ本体側はマザーボードのボックスを開けて下さい。(下図参照)

マザーボード及びバッテリー基盤横に 4 つのチャンネルボタンがあります。このチャンネルボタンを本体とリモコンを同じにしてなおかつ他のリモコンと同じチャンネルにならないように設定して下さい。(例えば 1 を ON、もう一台は 2 を ON、もう一台は 4 を ON)

チャンネルの設定が終わったら本体とサーモコンフォートリモコンのバッテリースイッチ、メインスイッチ⑩を入れて下さい。

ストーブ本体側は変更の必要はありません。但し 1 台ずつ変更を実施して下さい。他のストーブの設定中はストーブ本体およびサーモコンフォートリモコンのメインスイッチは OFF にして下さい。



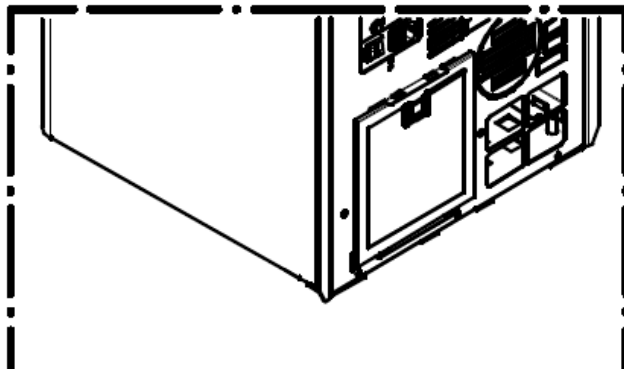
Caution: ensure correct and equivalent position of the microswitches.

LEGENDA
selettore codici per radiocomando
selettore codici per radiocomando
palmare gestito via onde radio

KEY
code selector for handheld radio control
radio wave-controlled code selector for
handheld radio control

6.5 フィルター

この部品はハウスタストをまき散らさないようフィルターが付いています。フィルターはストーブ背面の右側についています。ストーブのオーバーヒートや最適な熱交換の為に常にきれいにして下さい。(最低5日に一度はお掃除して下さい。)



6.6 送风管 (他室暖房用)

送风管の最適な設置について

- 狭い管や下向きあるいは急な曲がりには避けて下さい。
 - 出来るだけ送风管は短くして下さい。
 - 耐熱温度 150°C以上で内面に凹凸のない管をご使用下さい。
 - 送风管は耐熱温度 150°C以上の断熱材で覆って下さい。
- 送風口 (吹き出し口) の数は下記に従って下さい。
- 送風長さ 16m : 1 個
送風長さ 8m : 2 個
送風長さ 4m : 3 個
送風長さ 2m : 4 個

ストーブには既に2つのフィッティングが付属されています。1か所のみ送風したい場合右図の通りネジC1、C2を外して送风管Eの代わりにプレートDを取り付けて下さい。

レバーA (下図参照) にて送風の切り替えが可能になります。レバーAはペレットタンクのカバーを開けて付属のフックをレバーAに掛けて持ち上げてスライドさせて下さい。

注意：火傷防止のため必ず付属のフックでレバーAを操作して下さい。(熱いです。)

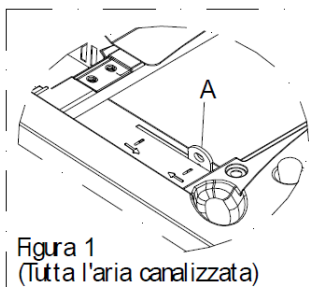
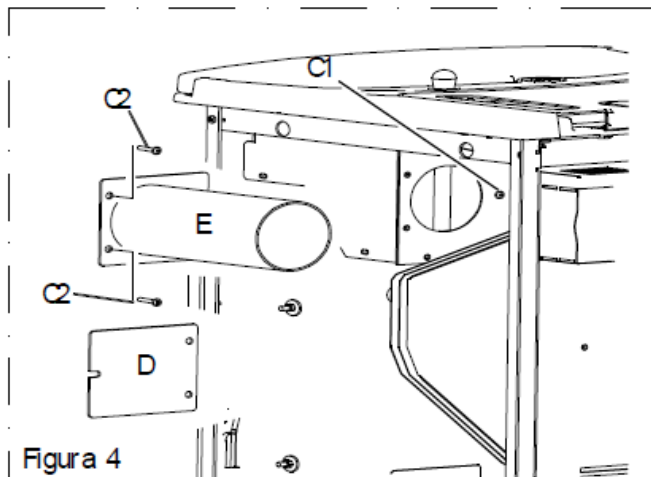


Figura 1
(Tutta l'aria canalizzata)

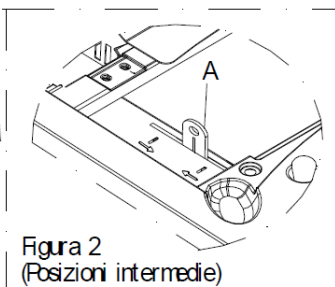


Figura 2
(Posizioni intermedie)

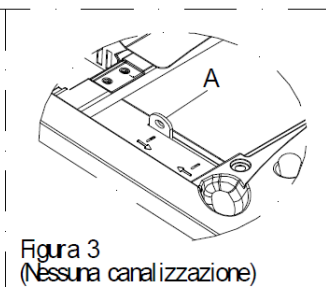


Figura 3
(Nessuna canalizzazione)

自動室温サーモスタットと時間別自動室温サーモスタット (オプション)

このサーモスタットは別売品です。サーモコンフォートリモコンの機能を使えばこのオプションは必要ありません。ここでの説明は省略させていただきます。詳しくは販売店、輸入元へお問い合わせ下さい。

7. クリーニングとメンテナンスについて

8.1 はじめに



全ての作業は必ずコンセントを抜いた状態で行って下さい。エコサーモのストーブは特別なメンテナンスは必要ありません。簡単で基本的な調整と一般的なクリーニングが必要ですが、これにより正常な運転が得られます。

8. 2 ストープのクリーニングとメンテナンス

毎日 : 燃焼皿 (空気穴を確保して下さい) の灰を捨ててヒーター周りをきれいにして下さい。



(写真 1)

3日おき : 熱交換パイプ周りの掃除のためロッドを数回上下させて下さい。(写真 2 参照)

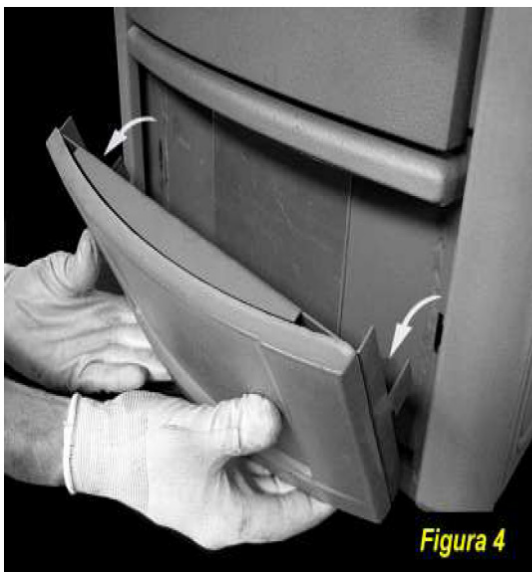
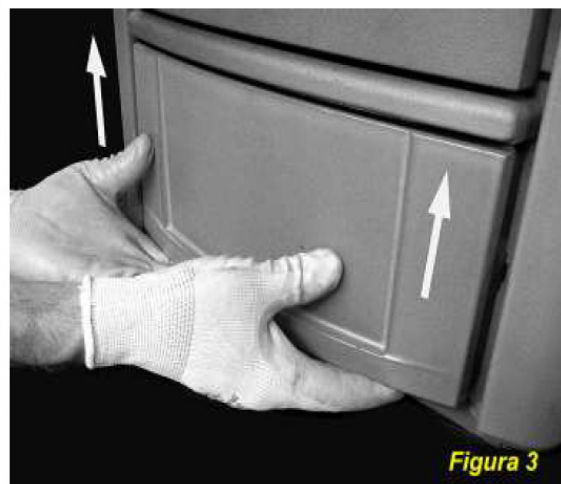
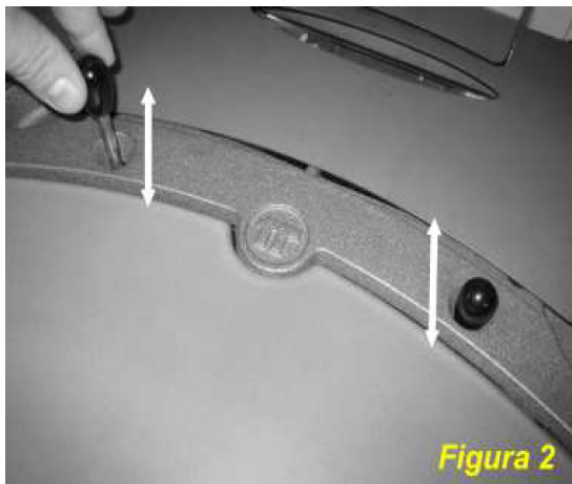
5日おき : フィルター (ストーブ背面) を掃除して下さい。(写真 11 参照)

毎週 : 灰受け V およびその周辺、燃焼皿下の V1 に溜まった灰を取り除いて下さい。

V1 は掃除機で吸うのが簡単です。(写真 9、10 参照)

2週間おき : ストーブの排気口直後の T 字管部をクリーニングして下さい。

毎月 : A1 (写真 5 参照) を開けて確認・クリーニングして下さい。開けるためには写真 3、4 の通りドア下のパネルを外して下さい。EASY の場合はパネルの両サイドを内側へすぼめて外して下さい。



毎月：排気管（特にストーブ排気口直後）に堆積物がないか確認して下さい。

ペレットタンクを空にして底に溜まった粉末を掃除機で吸って下さい。

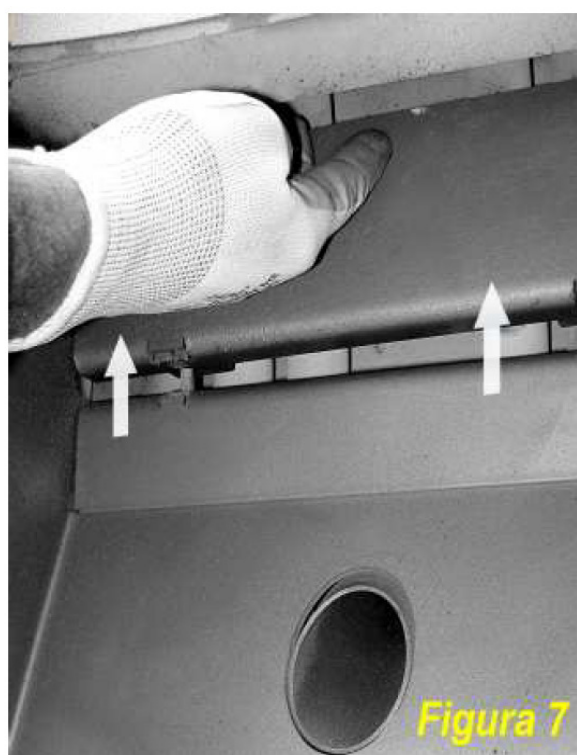
シーズン終了時

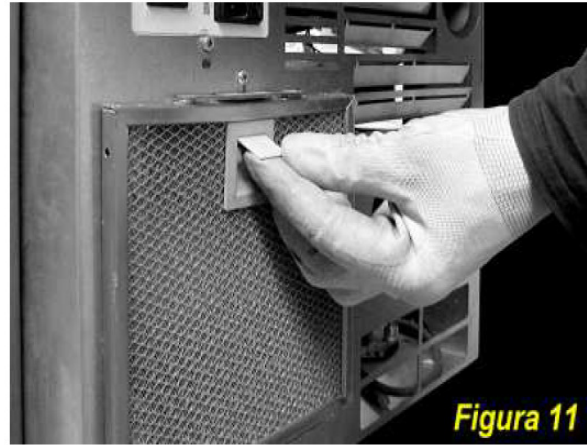
燃焼室内をブラシおよび掃除機を使って綺麗に灰や煤を落として下さい。薄く防錆油などを施すと錆びにくくなります。

2年に1度：

燃焼室裏の熱交換パイプ周りをクリーニングして下さい。熱交換パイプ写真 6,7,8 の様にプレートを持ち上げてピンから外れたら下に下ろして回転させると燃焼室から取り出せます。

これらのクリーニングを怠った場合は保証期間内でも保証いたしません。





▽ クリーニングに専用の掃除機を使うと非常に便利です。ガラスのクリーニングは湿った布や新聞紙などで掃除して下さい。ただし、ガラスが冷えた状態で行って下さい。写真9の炎の制御板を正しくセットしておけば、ガラスは汚れにくく簡単な掃除で綺麗になります。サイドパネルは柔らかい布と水で拭いて下さい。

8. 3 サーマコンフォートリモコンの充電について (オプション)

バッテリーのシンボルマーク⑬が点滅しはじめたらすぐに充電して下さい。充電中もシンボルマークは点滅し続けます。充電はリモコン機能を使わない時に行って下さい。

リモコンは定期的に充電して下さい。
 必要な充電時間は使用頻度により異なります。
 充電は付属の専用充電器を使って下さい。

- ・入力：100V～240V、50/60Hz、0.3A
- ・出力：5.5V、750mA

バッテリーにはNO/OFFスイッチがついて
 います。充電やご使用の際は必ずONに
 して下さい。

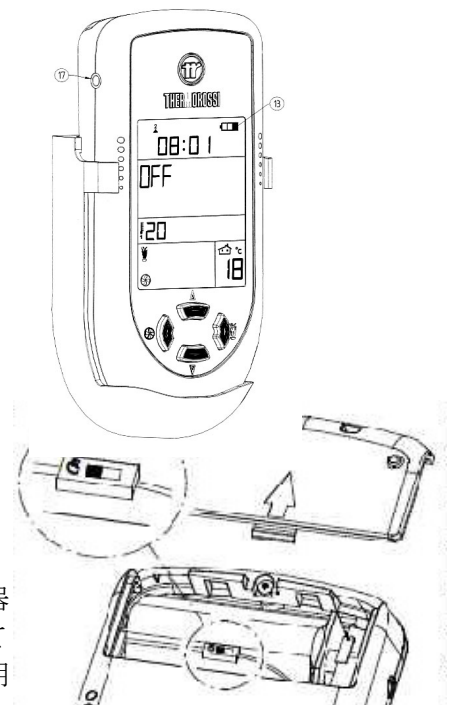
充電器はストーブで使用するトランスへ接続できますがプラグ変換器（CプラグからAプラグ）を使用すれば国内の100Vコンセントにて充電できます。充電は5日以上して下さい。充電時間が少ないと使用可能時間が少ない上にバッテリーの寿命を縮めます。

常に充電しながらでも要充電のサインがでることがありますが正常です。充電後充電器から切り離すことにより通常表示に戻ります。1週間以上リモコンを使用しない時はバッテリーの放電防止のため必ずリモコンのスイッチを切して下さい。尚、バッテリーの保証期間は6ヶ月間です。

▽ テルモロッシから提供された充電器以外を使用した場合、保証できません。

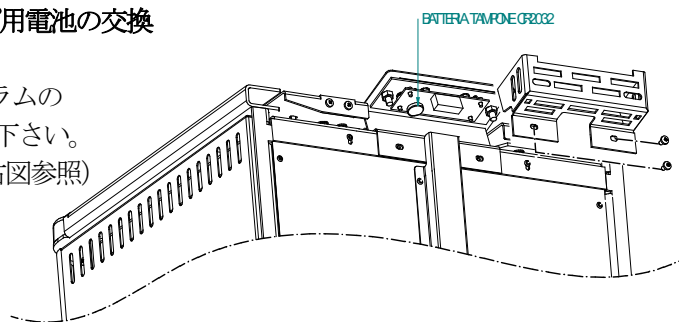
8. 4 リモコンの電池交換について

リモコンの信号が送れなくなった時（ボタンを押すときリモコンのLEDが点灯しない）は電池を交換して下さい。リモコンのネジを適切なドライバーで緩めてカバーを分離して電池を交換して下さい。電池は「LRV08 12V」相当品を使用して下さい。使い終わった電池は適切に処理して下さい。



8.5 コントロールパネルのバックアップ用電池の交換

コントロールパネルの中にバックアップ用の電池（CR2032）があります。時間やプログラムの記録が残らない様になったら電池を交換して下さい。パネル背面のネジを外すと交換できます。（右図参照）使い終わった電池は適切に処理して下さい。



9 排気管について

排気管は設置方法の不備により頻繁に問題が発生します。排気における全ての部品を簡単に設置できるよう下記に示します。尚、これは「UNI7129/92」「UNI10683」「EN14785」の基準を基に示すもので、実際の設置については設置場所の法令に基づいて行って下さい。また、設置については次のデータに対応するよう施工願います。

排気温度：220℃ 排気流量：9.3 g/s 必要ドラフト圧：0.09 mbar

9.1 室内の換気について

ストーブを設置する部屋は燃焼用空気（一次空気）の取り入れ、換気、二次空気を取り入れのため新鮮な空気が必要です。従って1つまたは複数の外気取り入れ口（通風口）を必ず設けて下さい。外気は綺麗な空気が入る様に考慮して下さい。（ストーブの排気等を入れない）外気との通風が直接出来ない場合、また隣接する部屋から換気する場合などは下記の注意ならびに制限を考慮して設置して下さい。

外気を取り入れる壁の通風口は下記の条件を満たすこと

- ・100 cm²の開口面積を持ち格子状に区切られている場合1つの開口部は6 cm²以上のこと
- ・遮断蓋などがなく常に通風状態を保つ構造であること（開閉可能にしないこと）
- ・上記開口面積を確保して金網または類似品で保護すること。
- ・フローレベル（高さ）に設置すること。

離れた場所（部屋）から取り入れる場合

- ・取り入れる部屋は上記の基準の通風口を設置して下さい。
- ・通風口を設置した部屋とストーブを設置した部屋をパイプなどで通風して下さい。
- ・取り入れる部屋は寝室や共有スペースなどは避けて下さい。（空き部屋を使用して下さい。）
- ・火災の恐れ、貯蔵庫、ガレージ、可燃物が蓄えられた部屋等から取り入れないで下さい。
- ・負圧になる可能性がある部屋からは取り入れないで下さい。
- ・二部屋をつなぐ通風口も上記基準で設けてネットカバーをつけて下さい。隣接する部屋とドアで繋がっていてドアとドア枠との隙間が上記開口面積を満たせば通風口代わりにになります。



以上の設置基準は「UNI7129/92」「UNI10683」「EN14785」を参考に設定したもので、推奨するものではありません。設置する有資格者は正規の規格を理解した上で設置して下さい。

9. 2 排気管について

排気管について右図数値を推奨します。これは排気ファンの故障や停電時などでもドラフト効果で排気する為に推奨するものです。この効果を得る為にはストーブの排気口ならびに直後のT管位置より1.5m以上の高さが必要です。

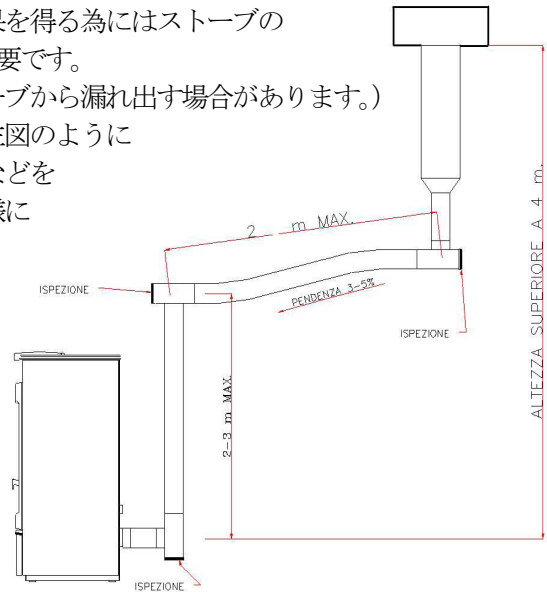
(この高さがないと排気ファンが動かない時、煙がストーブから漏れ出す場合があります。)

下の図は屋根を貫通される場合の事例です。この場合下左図のように排気管を適切な高さで壁に固定し、点検口の付いたT管などを必ず付けて下さい。またトップ部は風の影響を受けない様に風除けキャップを装着して下さい。

レンガ造りの煙突を流す場合下右図のように内径150mm以下のステンレスパイプまたはホーロー処理されたスチールパイプを通すことをお勧めします。壁への固定、点検口、風除けキャップの設置は同様に必要です。既存の煙突にパイプを通したら貫通部は必ずシールして下さい。**煙突トップに網を掛けることはストーブの誤作動の原因になります。**

水平部を持つ排気管を設置する場合、掃除のために点検口を設けて下さい。(右図参照) 灰の除去や、軌道を妨げる不燃物などの有無を確認するために必要となります。

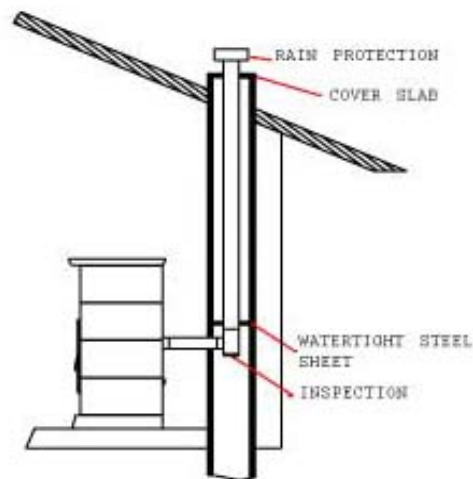
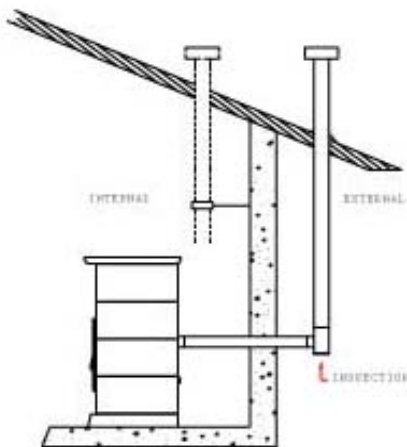
排気管は僅かなドラフト効果があり、燃焼室を負圧にします。これは排気経路に漏れがない事が条件です。排気管の素材は適切な材質を使用して下さい。例えばホーロー処理されたスチール管や耐熱シール(350°C)など。また管の外側は必ず断熱材にてカバーして下さい。



全てのセクションで点検口を設けることで点検、清掃が可能になります。



オプションの側面排気にする場合、排気圧センサーのチューブを損傷させないよう注意のこと



10 アラーム

このストーブは3つの基本的なアラームを知らせるようプログラムされています。アラームの内容は次の通りです。

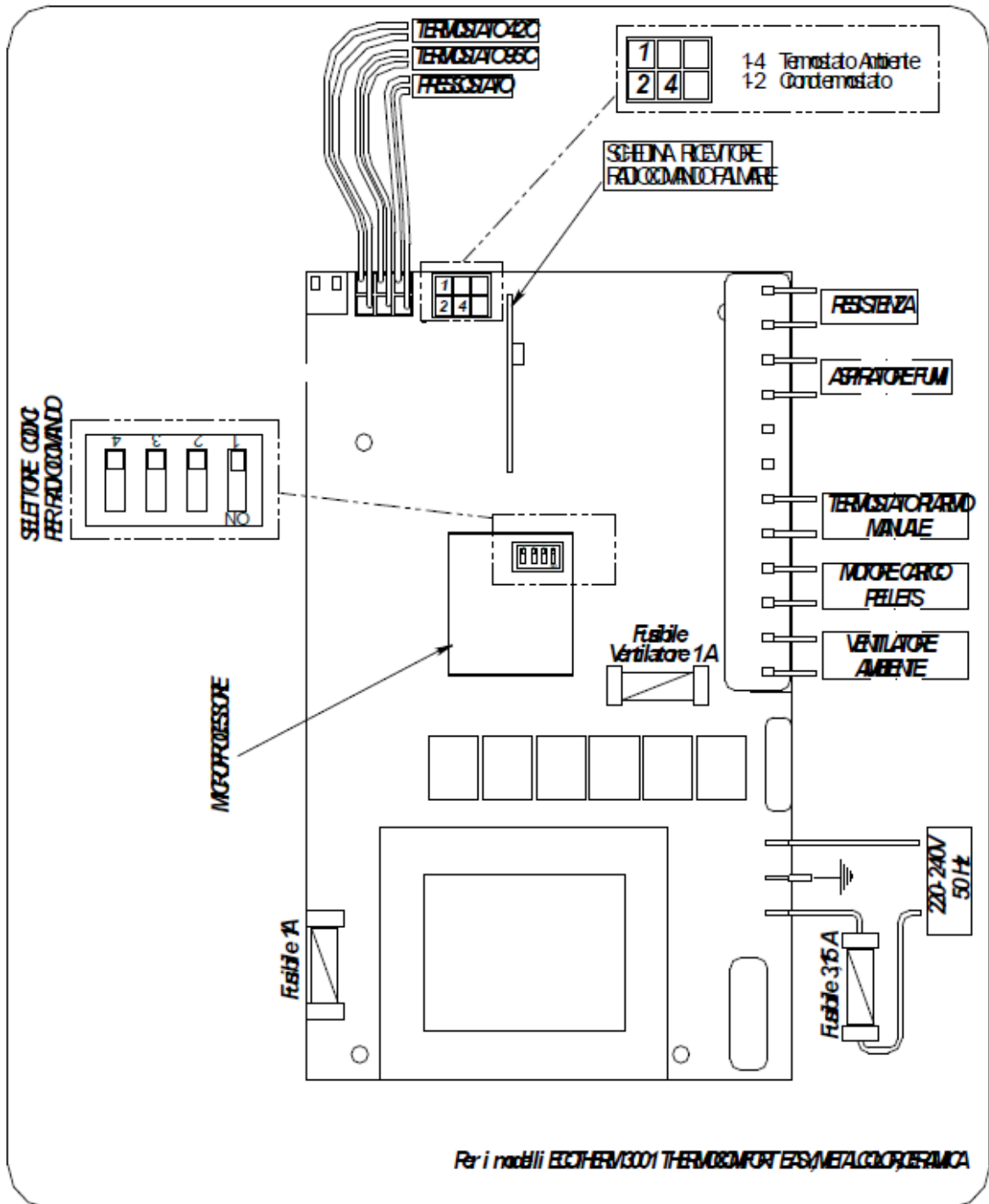
「AL PE」: これはスイッチ ON のとき燃焼室が 42°C以下になったことを意味します。つまり稼動中にタンクのペレットがなくなったときなどのアラームです。

「AL AC」: 着火モードの際、燃焼室が 42°Cに達しなかった場合のアラームです。

「AL OP」: 排気が詰まり排気センサーが作動した時のアラームです。

以上をリセットする場合は一旦背面のメインスイッチを切って、再度スイッチを入れて下さい。

1 1 電気配線図



1 2 技術情報

1 2. 1 基本的構成部品と機能

<排気圧センサー>

これは必要な時にいつでもフィーダーモーターをストップさせるセンサーです。主な原因は排気経路、排気管が塞がれた時に反応します。排気管出口までメッシュのフィルターなどは取り付けないで下さい。メッシュが詰まり排気圧力が発生しフィーダーモーターとストップさせます。

<フィーダーモーター>

このモーターはマイクロプロセッサにより制御され断続的に回転します。モーターは次の場合に運転を停止します。

- ・ モーターが過熱となった時
- ・ 排気経路が塞がれ排気圧センサーが働いた時

- ・ ペレットがなくなった時
- ・ メインスイッチを切った時
- ・ マニュアル運転時、ストーブ内部が125℃になった時

<送風ファン>

送風ファンは送風室の温度が42℃になると自動的に運転を始めます。メインスイッチを切ると停止します。

<吸排気ファン>

着火ボタンを押すと運転を始めます。最初の2分間は排気経路のこもった排気を排出させるために最大パワーで運転します。その後自動制御運転となります。消火モードになっても排気の安全のため約1時間またはストーブが42℃以下になった後30分間は運転します。停止するまでメインスイッチは切らないで下さい。

<42℃温度センサー>

これはストーブをパワーアップさせ運転モードに替えたり、同様に吸排気ファンを停止させるためのセンサーですので非常に重要な機能です。

<ペレットタンクの温度センサー>

ペレットタンクおよびタンク付近が95℃になると送風ファンが強制的に最大レベルで運転します。

<125℃温度センサー>

ストーブ内部が125℃に達するとフィーダーモーターを停止します。この時背面パネルの赤いランプが点灯します。過熱の原因を確認して対処して下さい。背面パネルの赤いキャップを外してリセットボタンを押すとリスタート出来ます。(この時117℃以下になっていなければなりません。)

<着火ヒーター>

着火モードで稼働します。燃焼皿の奥にあり約800℃の熱を発生させペレットへ着火させます。

12.2 設置と操作についての大事なアドバイス

- ・ 本体から電源コードを抜き取って作業して下さい。電源を切っていないと排気が部屋へ漏れたりし危険です。また燃焼中、消火モード途中でスイッチをいきなり切らないで下さい。
- ・ 排気管出口は壁を水平に抜いただけの位置にしないで下さい。燃焼の排気は一般的な方法で保証しなければなりません。
- ・ 排気管を水平部分だけにしないで下さい。強風の影響を受け排気管に流れ込みストーブが停止します。
- ・ ストーブ本体表面のエナメル製のケイ酸塩の乾燥と焼きのために最初の10時間は最大火力で試運転して下さい。時間とともに燃焼室の表面は排気により腐食が進みますがと塗装の剥がれではなく正常です。
- ・ 排気経路にメッシュの網や排気を阻害するようなものを装着しないで下さい。ペレットを燃焼させるのに必要な吸排気に影響を及ぼします。
- ・ この取扱説明書を良く読んで下さい。
- ・ ストーブは常に掃除して取扱説明書に従って燃焼状態をチェックして下さい。
- ・ 定期的に排気管を掃除して下さい。
- ・ 高品質のペレットを使用して下さい。品質が悪いと極端に暖房能力が低下します。
- ・ 排気管の設置基準は次の通りです。

表面をアルミ処理されたスチール管(厚さ1.5mm以上)、ステンレス管または0.5mm以上のエナメル処理された管を使用して下さい。

排気管の最低高さ：4m以上

排気管の最高高さ：8m以下

5%の勾配横引長さ：0.5m以下

0.5m内のエルボ設置数：2個以下

実績または技術的根拠による場合はこの限りではありません。

12.3 トラブルシューティング

不具合	原因	対処
ペレットが落ちてこない	ペレットタンクが空です。 「AL PE」表示	ペレットを補給して下さい。
	異物がタンク底に噛み込んでいます。 「AL PE」表示	異物を取り除いて下さい。
	排気経路などに障害物があり、排気が阻害されています。「AL OP」表示	汚れたり、詰まったりしていないか排気管を確認して下さい。
	排気管トップにメッシュなどを装着した場合、排気が阻害されています。 「AL OP」表示	阻害するものを取り除いて適切な部品へ交換して下さい。
	突然の突風により安全モードとなりました。「AL OP」表示	一旦スイッチを切り、もう一度着火して下さい。
	ペレット供給モーターが動かない。	モーター交換
	サーモスタットが作動し燃料供給モーターが停止した。	送風ファンの故障の場合は交換。ファンの汚れや埃による詰りが原因の場合は掃除して下さい。ストーブが冷めたらリセットボタンを押して再スタート。
ペレットが燃焼皿へ溜まる	排気経路などに障害物があり、排気が阻害されている。	汚れたり、詰まったりしていないか排気管を確認して下さい。また阻害するものを取り除いて適切な部品へ交換
	着火ヒーターが汚れている。	頻繁に清掃して下さい。
	必要以上に溜まっている。	燃焼皿を綺麗にしてプログラム設定をP2にして下さい。
	着火ヒーターの位置が正しくない。	位置を調整して下さい。
	着火ヒーターが上に上がり過ぎている。	位置を調整して下さい。
ストーブから煙が出る	初めて燃焼する時におきます。本体のシリコンコティンクが焼かれています。	完全に焼き終わる約10時間は試運転して下さい。(部屋は換気すること)
	排気管に漏れがある。	ガスケットなど適合しているか確認。
	25分後に煙が出始めた場合：着火ヒーターが汚れていて着火が遅れた。	着火ヒーターを綺麗にして下さい。
	25分後に煙が出始めた場合：オーガー内のペレットが無い	タンクにペレットを補充して下さい。
着火モード終了後5分で停止した	オーガー内にペレットが無く、着火が遅れた。「AL AC」表示	タンクにペレットを補充して下さい。
	着火ヒーターが汚れている。 「AL AC」表示	頻繁に清掃して下さい。
	42℃温度センサーの故障。 「AL AC」表示	交換して下さい。
ガラスが煤で黒くなる	ペレットが燃焼皿に溜まりすぎている。	上記対処法参照
	炎制御板が正しく置かれていない。	正しい位置にして下さい。
	不明	まめに掃除して下さい。
送風が弱い	送風ファンが汚れています。	マニュアルに従って掃除して下さい。
着火できない	着火ヒーターの故障。「AL AC」表示	交換して下さい。
ストーブが暖まらない	断続的な稼働状態です。	火力レベルを上げてより長いサイクルに調整して下さい。
	部屋が広すぎる、壁が冷たい等 天井が高い、または熱気が逃げる階段などがある。	部屋を仕切って下さい。または火力レベルを長時間上げて下さい。
燃え残ったペレットがある	タンクが空になった。	燃焼皿を空にしてペレットを補充して下さい。
プログラムや時刻が記憶されない	本体のバックアップ電池切れ。 (CR2032)	電池を交換して下さい。

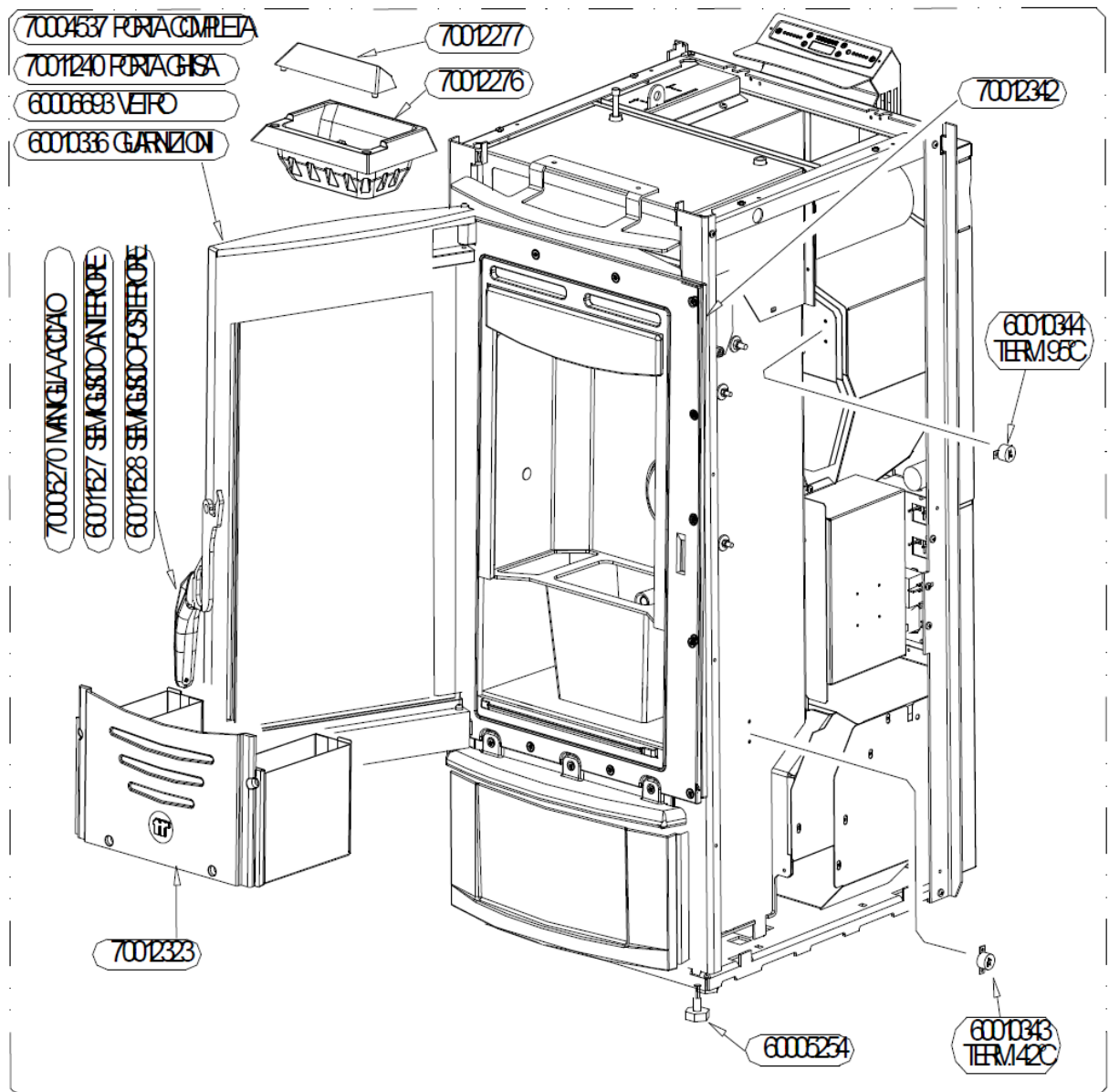
13.2 SPARE PARTS

LEGENDA

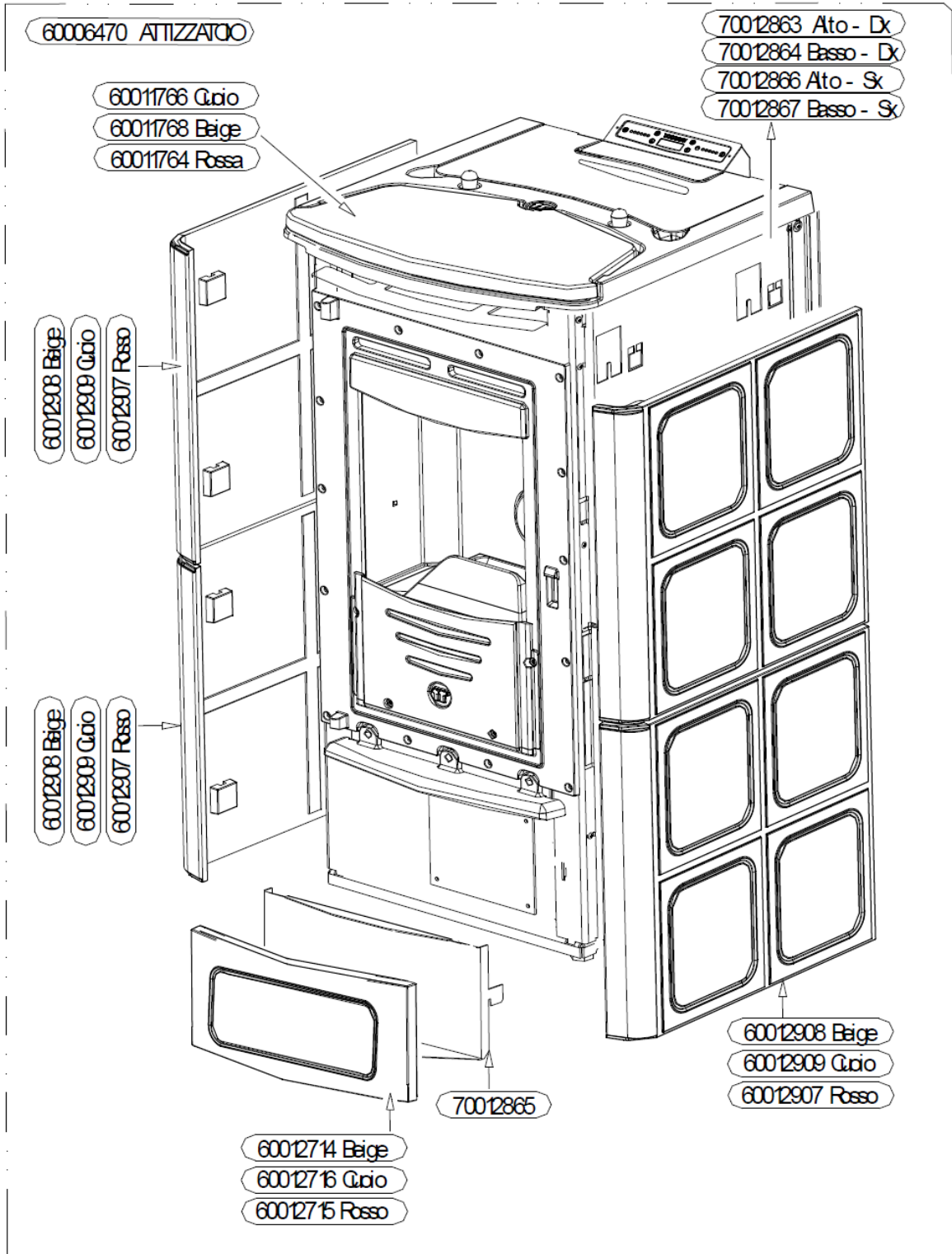
Inox
 Beige
 Rosso/a
 Cuoio
 Nero/a
 Porta completa
 Porta ghisa
 Vetro
 Guarnizioni
 Maniglia acciaio
 Semiguscio anteriore
 Semiguscio posteriore
 Term. 42/95°C

KEY

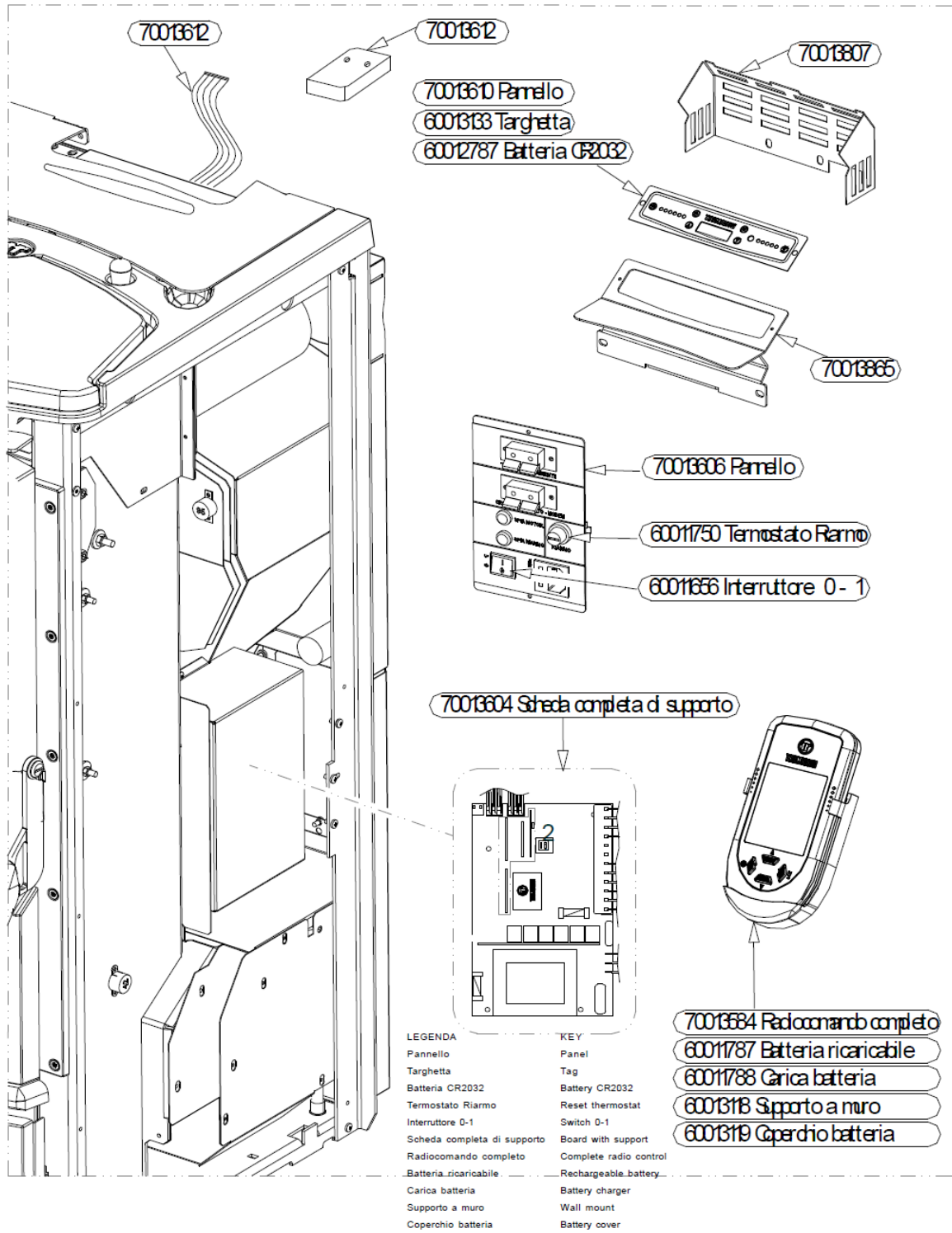
Stainless steel
 Beige
 Red
 Leather
 Black
 Complete door
 Cast door
 Glass
 Gaskets
 Steel handle
 Front handle cover
 Back handle cover
 Therm. 42/95°C



13.4 SPARE PARTS



13.5 SPARE PARTS



【 保 証 書 】

この製品の保証期間はご購入日から1年間です。保証書のコピーを輸入元へお送り下さい。

製造会社、輸入元および販売店は、エコサーモの全体の状態、製品、使用部品にいかなる欠陥もないことを保証します。

保証書を使う際は以下のことを行ってください。

- ー 領収書、銀行振り込み記録などにより、ご購入年月日を明示してください。
- ー 保証期間内に故障が生じたり、破損や欠陥が見つかった場合は、お客様のお名前、住所、電話番号、ご購入年月日、エコサーモの型番、トラブルの状況およびストーブの設置・運転状況を販売店にお知らせください。

販売店がある場合は欠陥または故障の状況を調べて、報告書を作成します。輸入元・販売店は故障の内容が保証書によってカバーできるかどうかを確認した上で、無料修理・交換を行います。

保証条件について

- 1) 輸入元は、エコサーモの構成部すべてにおいて（消耗品を除く）、ご購入年月日から1年間保証します。
- 2) 消耗品に関しては、不良品の場合を除いて、保証の対象にはなりません。よって、以下の部品は保証外になります：ガスケット、燃焼制御板、接続部品、グリル、ガラスドア、耐熱セラミックプレート。
- 3) 保証期間内に破損もしくは欠陥が見つかった場合、販売代理店に点検を依頼してください。設置業者により不備が確認された場合、必要な部品交換などはすべて無償で行われます。
- 4) この保証書は、本製品をご使用のお客様にのみ有効です。権利の譲渡はできません。また、エコサーモの過熱しすぎによる損傷は、保証の対象外になります。ストーブの誤った設置や使い方および、温度によるストーブ表面への影響についても、保証の対象外になります。
- 5) 保証金額は、本製品の購入代金を上限とします。製造会社・輸入元は、修理または欠陥部品の交換でお客様に補償します。
- 6) お客様のメンテナンス不足に起因する不具合、また設置工事ならびに設置工事不備による損害は保証の対象となりません。

注意： ご購入者は、保証書がいつから効力を発揮しているかを証明するために、ご購入年月日が明記された領収書あるいは送金レシートを必ず保持・保管してください。

ご購入年月日： 年 月 日

コピーして輸入元へ送ってください。コピーが輸入元へ無い場合保証出来ません。(メールでも可)

輸入元：有限会社河西 (ユーロストーブ) 〒243-0425 神奈川県海老名市中野 1-11-39

TEL : 046-238-9991 <https://www.pellet-stove.jp> E-mail:info@pellet-stove.jp

【お客様登録情報】

ストーブモデル	
お名前	
ご住所	
お電話番号	
メールアドレス	
施工代理店	
お客様のサイン	

お客様の情報は保証の確認のみに使用し、第三者へ開示することはありません。